命の誕生を描き続ける鈴ノ木ユウ氏。その精神力、体力を支えるものの一つ『脱稿めし』が明かされる！

二度目の投稿作『えびチャーハン』がちばてつや賞を受賞し、本誌掲載された。売れないロックミュージシャンだった経験を活かし『おれ達のメロディ』を短期集中連載。『コウノドリ』で週刊連載デビュー。同作品はTVドラマ化もされ、第40回講談社漫画賞一般部門を受賞した。

漫画：鈴ノ木ユウ

この漫画は・・・

漫画家が締め切りあけに食べる至福のご飯を『脱稿めし』と呼ぶ・・・
これは究極の癒やしを披露する、35周年企画漫画である！

僕には脱稿めしはありませんがこの店なら食べるものが決まっています

ボクはつくねの塩5本と黒ビール

四文屋

すると大抵の場合まちがえてタレで来てしまいます

これ……みんなで食べて

ねぇ店員さんドコの人？

ベトナム！

四文屋

美味(うま)っ

四文屋のつくねは丸くなく棒タイプの軟骨入り…コリコリとした食感と絶妙な塩加減とこげ目が最高!! 四文屋はつくねの塩に限る!!

グッ

予告 次回は3月16日(木)発売の16号で山下和美氏の脱稿めしをご紹介！

モーニングゼロ MORNING ZERO 2016 12月期 結果発表!! 平沢ゆうな

毎月選考実施のモーニング・ゼロ。平沢ゆうな氏、三度目の潜入です!!

『ちゅーちゅーかみかみ』 1作品目

現代日本で、気が付いたらバンパイアになっていた双子の「しろまる」と「くろまる」。
しかし、特に動揺することはなく、現代社会のバンパイアとして、どう馴染むかについて悩む二人。
ある夜、コンビニで深夜バイトをしているくろまるのもとに、バンパイアハンターが入店してきて…。

『ゴル科』 2作品目

田辺綾は桜野外国語大学の一年生。専攻はモンゴル語、通称「ゴル科」。マイナー言語専攻の学生たちは、今日もそれぞれの想いを胸に、雄大なるモンゴルについて学んでいた。

今月も、白熱の選考会を胸熱の漫画でお届けします。

平沢ゆうな
漫画家。東京都出身。スイーツが好き。『僕が私になるために』で2016年デビュー。

編集部員・宮本
モーニングゼロのチーフ。福岡県出身。夜な夜な、走っている。

編集部員・高橋
モーニングゼロのチーフ補佐。埼玉県出身。夜な夜なサウナに通っている。

3作品目

『選択死』

のどかな田舎町。縁側で一人お茶を飲んでいる老女「梅」のもとに、黒服をまとった少女が訪ねてくる。「役場の者です」と名乗った少女は梅との雑談のあと、唐突に梅に話を切り出す。「30分後 脳卒中で倒れます 延命しますか？」

モーニングゼロは…

賞に応募してから選考結果がわかるまでが早いのが魅力のひとつです。さらに全ての作品に編集者が講評を書いているので、「出して終わり！」とならない点もオススメ。

確かにこのキャラクターだけでは「人間を描けるけど描いてない」のか「描けない」のかが判別しにくいですね

技量を見たいのに…

でも背景はとてもキレイで田舎の風景が設定をよく引き立たせてますね

4作品目

『ありんすじごく』

三途の川を渡るには六文銭が必要。花魁の一之瀬にそのことを教えられた主人公は、船賃を稼ぐために、鰻屋に弟子入りする。いつしか、一之瀬に気に入ってもらえる鰻を焼こうと奮闘するようになった主人公。ある日、弟子入りした鰻屋の主人に、一之瀬の話をしたら、主人の顔色が変わり…。

絵もキャラも完成度高いし短編としては文句なしじゃないかな…

駒木根編集部員

主人公の存在感が薄いけど作品の完成度は高いですね～

冨士編集部員

ええ…とにかく絵が綺麗だった

私も前は変形コマを使ってたんですよ

少女漫画とかにはよくある手法ですが読み慣れてない方には読みにくいんですよね

手前に人物

奥に別パースの背景

モーニングはかなりオーソドックスなコマ割りが多いですからね

斜めのコマは少ないです

さて選考会は終わりましたが平沢さんはいつもデータを何かまとめてましたよね?

オリジナリティー出そうとして始めたもののネタ切れそうだからやめていいですか?

それはダメです

とりあえず今回の応募作で全体的に私が気になったのは構図です

『選択死』はキャラがデフォルメなものの背景だけのコマや引きのコマなどがしっかり散りばめられてて情景はもちろん雰囲気作りにも一役買っていました

『選択死』

「背景のみ」「引き」などの「キャラが主体でないコマ」の割合……
数えてみたら約50%でした

半分…けっこう多い…

確かに『選択死』の構図はとても読みやすかったですね

顔だけのコマばかりだと場所も位置関係もわかりませんし読者も飽きてしまいますよね

←よろしくない!!

←スッキリ♥

カメラアングルと背景の描き込みは意識しすぎぐらいが新人投稿者にはちょうどいいかもしれないですね

まぁ…このレポ漫画も顔ばかりですけど…

これは大目に見てくださいよ!!

ぶわっ!!

←左ページでいよいよ結果発表!!

モーニングゼロ MORNING ZERO 2016 12月期 結果発表!!

奨励賞2本!! 期待賞4本!! 計6本が受賞!!

2本が掲載デビュー!!

奨励賞

賞10万円+Dモーニング12号+公式サイト「モアイ」に掲載!!

『ありんすじごく』

掲載 46ページ

糸川一成（東京都・28歳）

あらすじ

死んでしまったものの、三途の川を渡るための船賃を持っていない主人公は、花魁・一之瀬の案内のもと、鰻屋に弟子入りする。美しい一之瀬に心惹かれつつ修行に励む主人公だったが、鰻屋の主人に一之瀬の話をしたところ、主人の顔色が変わり…。

選評

「艶やかな人物が描ける」という大きな武器を持っています。原稿も丁寧で、描くペースさえつかめればすぐにでも連載ができそうです。ただ、コマ割りやフキダシの配置など、少し読みにくさを感じる部分があるので、一層読みやすさを意識してほしいです。（寺山）

今回の応募作の中では抜群に絵のクオリティが高かったです。江戸の町の背景、着物、女の人のうなじなどこのレベルで表現できる人は連載作家でもなかなかいないかと思います。コマ割が多少読みづらい部分もありますが、そのあたりを意識して連載を狙ってください。次作が楽しみです。（吉原）

漫画としてのストーリーも作れていたし、キャラクターの心情が表情のひとつひとつにしっかりと刻み込まれていて、どういう気持ちで読めばいいのかがハッキリしていて読みやすい。そして色気もあったので素晴らしかったです。早く次の作品が読みたい！ これからがとても楽しみですね。（富士）

奨励賞

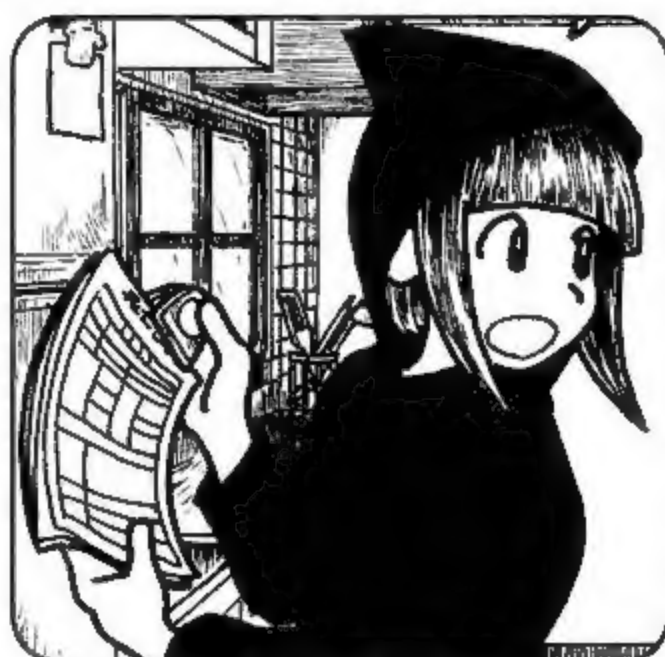
賞10万円+Dモーニング12号+公式サイト「モアイ」に掲載!!

『選択死』

小田のぐ（神奈川県・22歳）

掲載 15ページ

あらすじ

のどかな田舎町。縁側で一人お茶を飲んでいる老女「梅」のもとに、黒い服をまとった少女が訪ねてくる。「役場の者です」と名乗った少女は、世間話を終え、梅に問う。「30分後、あなたは脳卒中で倒れます。延命しますか?」──。

選評

日常の風景の中でA.I.を描いた新人賞応募作は多く見かけます。その意味では新鮮さに欠けましたが、作者のA.I.との距離感は新鮮でした。特にA.I.の休息をさらりと描いた最後の3ページは秀逸。死を想起してドキリとしました。軽やかな絵柄も内容とマッチしていましたね。次回作を楽しみにしています。たくさん描いてください。（宍倉）

15Pという短いページで、大きな世界を描いている。見事な構成力です。キャラも魅力的だし、構図も素敵。話も非常に現代的。セリフ回しもわかりやすい。絵もちょっとクセがあるが上手いし、若いこともあり伸びる感じがある。すごく才能を感じます。今後は連載に向けて、長い話を作っていければと思います。（小松）

のどかな田園風景の中に、A.I.という非現実を静かに溶け込ませた世界観が秀逸でした。絵柄も優しく心地良いのですが、読み終わった後に「過疎」や「孤独」「死」という重いテーマが澱のように心に残る、不思議な力を持った作品です。オチが淡白すぎるので、最後まで丁寧にメッセージを織り込んでほしかったです。（齋藤）

期待賞 5万円 乙華麗丼（おつかれいどん）（京都府・22歳）

22ページ

『ちゅーちゅーかみかみ』

あらすじ 現代日本で、気が付いたらバンパイアになっていた双子のしろまるとくろまる。しかし、特に動揺することはなく、現代社会のバンパイアとして、どうなじむかについて悩む二人。ある夜、コンビニで深夜バイトをしているくろまるのもとに、バンパイアハンターが入店してきて…。

選評 読み切りや連載の第一話にありがちな、世界観の説明や、キャラを紹介するためだけの出来事などを、必要最低限ギリギリまで省いている。そのために本筋の"ちょっと脱力ギャグ"に集中できた。なんだか読み切りなのに、「よく知っている、好きな連載漫画の、とある1話」のようなテンションで、ストレスなく楽しく読めました。（平野）

期待賞 5万円 マダムちゃん（奈良県・21歳）

33ページ

『食禁（しょっきん）』

あらすじ とある事情から、クラスで飼っていたウサギのぴょん助を死なせてしまった子供たち。発覚を恐れた彼らは、ぴょん助を食べてしまうことで事態を隠蔽することに。ぴょん助の死体を抱え、どんな注文でも聞くという料理店・猫山軒を訪れる…。

選評 子供の無垢（むく）さ・無邪気さが意図せず悪に転じてしまい、それに子供たち自身が慌てふためき、取り繕おうとしてさらに事態を悪化させていく様子がとにかくリアル！　加えて構成も上手で、物語を通しての「説得力」を獲得している。この作品を子供たちに読ませたら、きっとみんな食事の前に「いただきます」と言うようになると思います。（平野）

期待賞 5万円

てらだこうじ（東京都・30歳）

32ページ

『昆虫（こんちゅう）になりたい』

あらすじ とにかく昆虫が大好きで、昆虫になりたいと願う男子高校生・奥本と、AV男優になりたいと願う友人の山根。奥本は山根に、卒業後どちらが先に夢を叶（かな）えるかの勝負を持ちかけられる。困った奥本は、なんとなく訪れた森で、自らをてんとう虫だと名乗る少女に出会い…。

選評 昆虫になりたいという発想が面白かったです！　話の流れも整理されていて、オチまで非常によく構成されていました。今後の課題は「絵」でしょうか。味のあるキャラクター造形ではあると思いますが、感情が読み取りづらいのが難点かと。また、全体的にもう少し丁寧に原稿を仕上げる、などに気を配るといいと思います。（駒木根）

期待賞 5万円 さねすえ（兵庫県・29歳）

43ページ

『ゴル科（か）』

あらすじ 田辺綾（たなべあや）は桜野外国語大学の一年生。専攻はモンゴル語、通称「ゴル科」。マイナー言語専攻の学生たちは、今日もそれぞれの想（おも）いを胸に、雄大なるモンゴルについて学んでいた——。

選評 読み手の好奇心をくすぐってやろう！という作者の姿勢が感じられた「モンゴル愛」あふれるお話でした。前作と原稿を比べてみると、モンゴルに心ときめく主人公の瞳は印象的でしたが、キャラクターのリアクションが画一的に感じられたり、絵柄が平面的に感じられてしまう部分も。絵柄のブラッシュアップは大きな課題になるかと思います。期待しています。（上田）